

日本篆刻家協会会報

第12号 平成26年3月31日発行
発行：日本篆刻家協会
563-0032 池田市石橋2-2-10-203
TEL 072-760-3852 FAX072-760-3853
E-mail: info@n-tenkoku.jp
http://www.n-tenkoku.jp

二十六年度総会開催

平成二十六年度総会が二月十三日、ホテル大阪ベイタワーで開催され、全国各地から役員、会員計二〇八人が参加した。

例年一月に新年会、二月に総会が開催されていたが、今年度は展覧会日程とのかねあいから総会、新年会が同日に開催された。総会に先立って企画委員会、第

一回理事会が開かれ、尾崎理事長体制の二期目を迎え、今後の協会の運営について協議された。

ごあいさつ 理事長 尾崎蒼石

日本篆刻展は本年度で三〇回展を迎えました。第一回、二回は象社主催で行われ、第三回展から日本篆刻家協会の主催で行われて現在に至っております。本展は発足当初より、篆刻のみの公募展として日本で唯一の公募展であり、三〇回展を迎えた現在でも変わりありません。この間、北は北海道から南は沖縄まで会員を有す日本最大の篆刻団体に成長して参りました。これは日本各地の指導者の努力の賜物と感謝申し上げる次第です。

扱、昨今の少子高齢化に伴い、篆刻人口も減少傾向にあります。これを何とか食い止めるなければなりません。方策は色々考えられますが、私は次世代の育成を主眼に置かなければ

ならないと考え、本年の三〇回展に初めての試みとして「小中学生篆刻展」を開催することにしました。これは小中学生に篆刻を経験してもらい、その面白さを感じてもらおうことです。この子供達が高校、大学、社会人になった時、この時の経験が必ずや成果を生むと考えたからです。この三〇回展には多くの小、中学生の作品が陳列されますので、出品された児童生徒の皆さん及び親御さんのご来場をお待ちしています。

協会としては、篆刻の普及のために役員、会員一丸となって努力して行くつもりです。尚、三〇回展は会場を大阪市立美術館から兵庫県立美術館王子分館原田の森ギャラリーに移しての開催となりました。何卒ご来場下さいますようお願いいたします。



今期の運営について基本的事項を協議する理事会

尾崎理事長の議長により肅々と進められた総会



全国からの会員が参集し交流を深めた新年懇親会



午後三時三十分からの総会は、尾崎理事長が議長を務め議事が進められた。平成二十五年度事業報告、同決算報告、同会計監査報告、平成二十六年度事業計画案、同予算案が提案されいずれも原案通り承認決定された。併せて、平成二十七年からの会費改定が提案され、会員千円から役員三千円の増が承認された。また、別表のとおり役員が承認された。また、本年から日本篆刻展の期日と会場が変更になったこと。「第一回小中学生篆刻



真鍋副理事長の首頭で一本締め



舞台上で紹介される新常務理事

作品展」を開催すること。本年は三十回展の節目に当たることから、例年の授賞式に加えて、中国篆刻芸術院、西泠印社、台湾印社等国内外の来賓を招き、祝賀行事の開催、三十年誌、篆社印人伝の発行を予定していることなど井谷副理事長から報告された。

総会に引き続き新年懇親会が開催された。和気藹々とした雰囲気、全国各地からの参加者は交流を深め合っていた。

平成二十六年年度役員一覽

- 【常任顧問】 山下方亭
- 【顧問】 市川兩僊
- 【理事長】 尾崎蒼石
- 【副理事長】 井谷五雲
- 【代表理事】 喜多芳邑
- 【名誉理事】 中島春緑
- 【常務理事】 伊佐治祥雲
- 【理事】 足立瑞泉
- 【参与】 会田慶子
- 石川思玄
- 大槻彦裔
- 渥美抱葉
- 稲葉竹葉
- 加藤静雲
- 天野心淵
- 今西九郎
- 金森喜涉
- 荒崎浄仙
- 太田華香
- 川西卯水
- 樋田白峰
- 酒井好雨
- 佐藤正明
- 清水抱石
- 白尾芳雲
- 杉本素月
- 関野羊越
- 瀧上紀翠
- 多田学友
- 田中九成
- 田中瑞峰
- 丹下青風
- 中田東光
- 西田茜秋
- 林旦山
- 樋口桃園
- 藤田孝風
- 松阪聖岳
- 松田泰軒
- 松本弘碩
- 水上健治
- 森豊苑
- 森川恵扇
- 山崎一雄
- 青木嘉代子
- 浅野江涯
- 浅野春泉
- 浅野祥雲
- 浅野和泉
- 浅良朱華
- 畔原裕美
- 池田蘆翠
- 井後雅堂
- 石亀明峯
- 石留之然
- 石原雲木
- 伊藤錦汀
- 伊藤梅香
- 今村董圃
- 上田静雲
- 上松狂夢
- 宇崎崎碧峯
- 内田真弓
- 梅原玉翠
- 大村雪陵
- 岡田桂舟
- 小川匪石
- 櫻野美久代
- 片畑仁美
- 加藤正順
- 川崎白水
- 岸村爽風
- 北田成磊
- 北野河聲
- 橘高香流
- 木本研塵
- 串田一逕
- 國方得仙
- 久保南芳
- 後藤實太郎
- 小森香苑
- 近藤胡蝶
- 嵯峨洛山
- 坂上香艸
- 阪口香雪
- 渋谷春好
- 正和杏葉
- 鈴木紀山
- 鷹取千豊
- 高野弘深
- 竹内立女
- 武友早知子
- 多田稔里
- 巽聖石
- 田中皋仙
- 千歳天空
- 寺田和仁
- 寺田濤雲
- 寺本翠葉
- 土井純司
- 桃陸苑
- 得永春水
- 戸出九廬
- 中島大夢
- 中林千影
- 仲森達園
- 名倉克彦
- 滑田寒鴉
- 西口青咲
- 庭田露舟
- 野中紫光
- 長谷川拓石
- 島穆風
- 畑間青露
- 服部九姚
- 坂名城泰久
- 花村秀嶽
- 原田恵苑
- 坂正步
- 坂東香璋
- 廣田佳苑
- 藤川眞惠
- 藤繩尚子
- 藤村香代子
- 古瀬章石
- 古野燕安
- 千田耕翠
- 堀口秀雄
- 本郷紫香
- 馬景泉
- 牧野象山
- 増田繁治
- 松井翠香
- 松田静石
- 松田美津子
- 松本清苑
- 水巻游光
- 南敏子
- 宮野宗雄
- 村田祥鳳
- 桃井泰道
- 山口敦子
- 山田青溪
- 山室雅美
- 山本恵子
- 山本寿法
- 山谷加津子
- 横井青蓮
- 吉田雅風
- 吉田宗里
- 渡部芳月
- 渡辺北舟
- 樋田白峰
- 酒井好雨
- 佐藤正明
- 清水抱石
- 白尾芳雲
- 杉本素月
- 関野羊越
- 瀧上紀翠
- 多田学友
- 田中九成
- 田中瑞峰
- 丹下青風
- 中田東光
- 西田茜秋
- 林旦山
- 樋口桃園
- 藤田孝風
- 松阪聖岳
- 松田泰軒
- 松本弘碩
- 水上健治
- 森豊苑
- 森川恵扇
- 山崎一雄
- 青木嘉代子
- 浅野江涯
- 浅野春泉
- 浅野祥雲
- 浅野和泉
- 浅良朱華
- 畔原裕美
- 池田蘆翠
- 井後雅堂
- 石亀明峯
- 石留之然
- 石原雲木
- 伊藤錦汀
- 伊藤梅香
- 今村董圃
- 上田静雲
- 上松狂夢
- 宇崎崎碧峯
- 内田真弓
- 梅原玉翠
- 大村雪陵
- 岡田桂舟
- 小川匪石
- 櫻野美久代
- 片畑仁美
- 加藤正順
- 川崎白水
- 岸村爽風
- 北田成磊
- 北野河聲
- 橘高香流
- 木本研塵
- 串田一逕
- 國方得仙
- 久保南芳
- 後藤實太郎
- 小森香苑
- 近藤胡蝶
- 嵯峨洛山
- 坂上香艸
- 阪口香雪
- 渋谷春好
- 正和杏葉
- 鈴木紀山
- 鷹取千豊
- 高野弘深
- 竹内立女
- 武友早知子
- 多田稔里
- 巽聖石
- 田中皋仙
- 千歳天空
- 寺田和仁
- 寺田濤雲
- 寺本翠葉
- 土井純司
- 桃陸苑
- 得永春水
- 戸出九廬
- 中島大夢
- 中林千影
- 仲森達園
- 名倉克彦
- 滑田寒鴉
- 西口青咲
- 庭田露舟
- 野中紫光
- 長谷川拓石
- 島穆風
- 畑間青露
- 服部九姚
- 坂名城泰久
- 花村秀嶽
- 原田恵苑
- 坂正步
- 坂東香璋
- 廣田佳苑
- 藤川眞惠
- 藤繩尚子
- 藤村香代子
- 古瀬章石
- 古野燕安
- 千田耕翠
- 堀口秀雄
- 本郷紫香
- 馬景泉
- 牧野象山
- 増田繁治
- 松井翠香
- 松田静石
- 松田美津子
- 松本清苑
- 水巻游光
- 南敏子
- 宮野宗雄
- 村田祥鳳
- 桃井泰道
- 山口敦子
- 山田青溪
- 山室雅美
- 山本恵子
- 山本寿法
- 山谷加津子
- 横井青蓮
- 吉田雅風
- 吉田宗里
- 渡部芳月
- 渡辺北舟

第1回小中学生篆刻作品展要項

1. 参加対象 小学校・中学校の児童、生徒
2. 課題 篆刻作品とする
内容・書体自由(姓名印、肖形作品可)
3. 出品用紙 協会指定の用紙
1人1点(印影のみ)
4. 出品点数 展覧後の作品は返却いたしません
5. 出品方法 指定用紙に直接押すか、押印して糊で直接貼付ける(コピー不可)
氏名、釈文、住所、学校名、学年、指導者名記入のこと
6. 締め切り 平成26年3月20日必着
7. 表彰 参加者全員に記念品をお渡しします
8. 展覧 平成26年4月9日(水)~13日(日)
兵庫県立美術館王子分館
原田の森ギャラリー
(神戸市灘区原田通3-8-30)
第30回日本篆刻展に併催
9. 問合せ・作品送付先 日本篆刻家協会事務所
「小中学生篆刻作品展係」

募 第30回
公 特別展観
● 日本篆刻展

● 特別展観 篆刻先賢作家作品 ◆ 併催 小中学生篆刻作品展

2014年
4/ 9 (水) ▶ 13 (日)
10:00 ~ 17:00 (入館 16:30 まで)
(最終日は 16:00 終了)

兵庫県立美術館王子分館
(原田の森ギャラリー)
神戸市灘区原田通3-8-30
電話(078) 801-1591

主催
日本篆刻家協会

後援
兵庫県・兵庫県教育委員会、神戸市・神戸市教育委員会
中国駐大阪総領事館、大阪府日中友好協会
公益財団法人兵庫県芸術文化協会

九月課題

「静境求初心」

十月課題

「入木三分」

役員(山下方亭選)



容庸



燕安



早知子



尚子



羊越

常任委員(山田塘霞選)



見聲



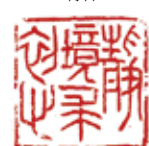
韶嘩



龍神



博石



雄山

委員(伊藤雅夫選)



戲石



明



容史子



華泉



敦子

會員(黒田玉洲選)



穆風



昌雲



功勝



教行



極浦

一般(黄平齋選)



美希



幽篁



雅宣



智子



篁雪

役員(尾崎蒼石選)



燕安



祥雲



吳山



繁治



杏葉

常任委員(堤白遊選)



斗舟



通敏



沙舟



誠峯



平峰

委員(中村葉舟選)



啓



峻齋



正明



究石



香堂

會員(南岳采雲選)



信夫



悅治



龍生



英昭



申隆

一般(武井岳峰選)



和子



顔了



靖武



瑞恵



寿和子

【役員】 坂正歩

○木村容甫 坂正歩

○古野燕安 大槻彦齋

○武安早知子 名倉克彦

○藤藤阿子 土井純司

○園野宇越 長谷拓司

○石亀明峯 岡田桂舟

今村重圃 今西九郎

計四人

【常任委員】 田中壽江

○立石見聲 大庭景雲

○古野燕安 河瀬魚仙

○武安早知子 稲垣竹扇

○藤藤阿子 番定静山

○園野宇越 脇田喜久

○石亀明峯 近藤胡蝶

今村重圃 奥島輝丘

計七人

【委員】 高城玲子

○岡崎巖石 高城玲子

○古野燕安 福倉紅

○武安早知子 小林寅次郎

○藤藤阿子 荒川紅絲

○園野宇越 山崎遊石

○石亀明峯 桑島双龍

今村重圃 矢田高秋

計七人

【全員】 吉岡龍生

○馬場穆風 吉岡龍生

○古野燕安 井上秋鹿

○武安早知子 大井智香

○藤藤阿子 中村紀久

○園野宇越 橋本游月

○石亀明峯 青山正人

今村重圃 井上江洲

計七人

【一般】 片原京子

○柳澤美希 片原京子

○古野燕安 浅藤幽室

○武安早知子 遠藤幽室

○藤藤阿子 松浦雅宣

○園野宇越 大野勝山

○石亀明峯 板屋智子

今村重圃 後藤英子

計七人

【一般】 松原京子

○柳澤美希 松原京子

○古野燕安 廣森勝行

○武安早知子 丸山沙舟

○藤藤阿子 垣内誠峯

○園野宇越 鈴木永平

○石亀明峯 安井芳泉

今村重圃 立石見聲

計七人

【一般】 木田好昭

○板屋智子 木田好昭

○古野燕安 後藤英子

○武安早知子 國江碧翠

○藤藤阿子 鈴木壽子

○園野宇越 向井教子

○石亀明峯 小林靖武

今村重圃 向井教子

計七人

【一般】 木田好昭

○板屋智子 木田好昭

○古野燕安 後藤英子

○武安早知子 國江碧翠

○藤藤阿子 鈴木壽子

○園野宇越 向井教子

○石亀明峯 小林靖武

今村重圃 向井教子

計七人

【役員】 青黄游魚

○古野燕安 村田祥風

○武安早知子 渡部芳月

○藤藤阿子 横井青蓮

○園野宇越 水巻遊光

○石亀明峯 南敏子

○今村重圃 林且山

今村重圃 武安早知子

計四三人

【常任委員】 青黄游魚

○北村斗舟 青黄游魚

○古野燕安 鈴木雄山

○武安早知子 飯田通敏

○藤藤阿子 丸山沙舟

○園野宇越 鈴木永平

○石亀明峯 安井芳泉

今村重圃 立石見聲

計七二人

【委員】 佐藤翠龍

○伊井啓 佐藤翠龍

○古野燕安 鈴木雄山

○武安早知子 飯田通敏

○藤藤阿子 丸山沙舟

○園野宇越 鈴木永平

○石亀明峯 安井芳泉

今村重圃 立石見聲

計七二人

【全員】 井上秋鹿

○松村信天 井上秋鹿

○古野燕安 飯田通敏

○武安早知子 丸山沙舟

○藤藤阿子 鈴木永平

○園野宇越 安井芳泉

○石亀明峯 立石見聲

今村重圃 向井教子

計七一人

【一般】 石場濱州

○片岡和子 石場濱州

○古野燕安 飯田通敏

○武安早知子 丸山沙舟

○藤藤阿子 鈴木永平

○園野宇越 安井芳泉

○石亀明峯 立石見聲

今村重圃 向井教子

計七一人

【一般】 大野勝山

○三井岡和子 大野勝山

○古野燕安 飯田通敏

○武安早知子 丸山沙舟

○藤藤阿子 鈴木永平

○園野宇越 安井芳泉

○石亀明峯 立石見聲

今村重圃 向井教子

計七一人

【一般】 須田桃苑

○寺地寿和子 須田桃苑

○古野燕安 飯田通敏

○武安早知子 丸山沙舟

○藤藤阿子 鈴木永平

○園野宇越 安井芳泉

○石亀明峯 立石見聲

今村重圃 向井教子

計七一人

【一般】 浪越尚美

○板屋智子 浪越尚美

○古野燕安 飯田通敏

○武安早知子 丸山沙舟

○藤藤阿子 鈴木永平

○園野宇越 安井芳泉

○石亀明峯 立石見聲

今村重圃 向井教子

計七一人

一月課題 「一清一濁」

二月課題 「三心二意」

役員(真鍋井蛙選)



立女



静雲



明峯



燕安



之然

常任委員(出田塘霞選)



墨石



錦風



素翠



惠苑



青桐

委員(黃平齋選)



桂水



乾石



恵笙



功勝



遼華

會員(伊藤雅夫選)



はる子



香之



容子



啓志



緑泉

一般(黒田玉洲選)



幽篁



顔了



美智子



瑞恵



勝竹

役員(平田蘭石選)



早知子



静雲



之然



容庸



九成

常任委員(榊原晴夫選)



平峰



青桐



明



澄子



見聲

委員(武井岳峰選)



宝樹



敬次



康生



雪峰



雲堂

會員(田中修文選)



喜雨



登



龍孫



正甫



陽子

一般(梶川久美子選)



勝山



碧翠



智子



溪州



瑞恵

【役員】 浅野祥彦

○竹内立女 名倉克彦

○上田静雲 田中九成

○石留明峯 山崎一雄

○古野燕安 木村容甫

○石留之然 瀧本青桐

○坂正歩 島柳風

○片畑仁美 関野羊越

計四十八人

【常任委員】 矢野亀山

○長谷山碧君 丸山沙舟

○篠浦錦風 番定静山

○宮越素翠 宮本瑞邦

○細川恵苑 青黄游魚

○木下青桐 渡邊尚石

○福本青桐 永野草翠

○川久保明 田中壽江

計六十八人

【委員】 八木正明

○市川桂水 田原群蛙

○永田乾石 西岡真美子

○中尾恵室 堂守唯文

○土屋功勝 山下登雲

○鳴川遠華 岩田耕烟

○森井昌雲 柴久利江

○岡本泰道 荒井典恵

計七十八人

【會員】 山岸英雄

○相良はる子 兼子悦治

○浦岡香之 境山正甫

○守容子 向井教子

○高木啓志 荒俣美好

○高木啓志 荒俣美好

○小林邦夫 三枝龍泉

○富岡教行 中村紀久

計七十一人

【一般】 服部和彦

○遠藤幽室 國江碧翠

○三井顔了 板屋智子

○鈴木菊子 石田幹男

○大森勝竹 後藤英子

○大野勝山 木村忠男

○牛島鈴輪 鈴木西川

計二〇人

【役員】 村田祥風

○武居早知子 上松莊夢

○上田静雲 長谷川拓石

○石留之然 坂正歩

○田中九成 古瀬翠石

○竹内立女 名倉克彦

○南敏子 荒崎浄仙

計五十三人

【常任委員】 梅田五月

○池谷宝樹 西岡真美子

○福本青桐 番定静山

○川久保明 永野草翠

○藤崎澄子 川栄玉峯

○立石登 河瀬魚仙

○佐藤翠龍 田中壽江

○長谷山碧君 宮本瑞邦

計七十三人

【委員】 安田和代

○井畑登雨 青山正人

○中島敬次 藤田紅霞

○月森康生 土屋功勝

○白幡雪峰 平中霞舟

○吉崎雲登 川端春峰

○堂守唯文 茶本仙華

○北畑謙之 伊藤嘉信

計八十四人

【會員】 三枝龍泉

○大野勝山 鈴木美智子

○水中文 和田扇舟

○中龍孫 鷹野緑泉

○相川長孝 相川長孝

○貞森陽子 中井榮子

○橋本游月 浦岡香之

○杉木和子 井上江洲

計七十一人

【一般】 広森勝竹

○板屋智子 遠藤幽室

○石田幹男 石田幹男

○石田豊 吉田豊

○堀瑞恵 片岡和子

○三井顔了 氏田佳恵

○牛島鈴輪 須田桃苑

計三十一人

西冷印社建社110周年慶祝大会会場前で記念撮影する西冷印社社員



西冷印社 一一〇周年記念訪中団

西冷印社一一〇周年記念大会に参加のため、日本篆刻家協会の訪中団として三名を一月二日から二五日まで杭州市他に派遣した。合わせて富春江で元理事長梅舒適先生の碑を見学した。

一月二日

山下方亭西冷印社名誉理事を顧問、尾崎蒼石理事長を団長、井谷五雲副理事長を副団長兼秘書長とする「日本篆刻家協会訪中団」は、関西空港九時四五分発、中部空港九時三五分発に分かれて出発し、無事現地時間一時一五分浦東空港にて合流し、結団式を終えた。団は一路専用バスにて上海市街地へ向かい、福州路、南京路を散策し、古籍書店・西冷印社・朵雲軒へ足を運んだ。四時より豫園商場界限散策、藏寶楼にて銘々印材等購入した。上海にて早目の夕食をとり、バスは杭州に向かう。以前にも増して交通渋滞は著しく、維景国際大酒店に着いたのは夜十時であり、長い一日であった。

一月二日

人民大会堂にて挙行された西冷印社建社一一〇周年慶祝大会に参加。秘書長の陳振濂氏による開会の挨拶及び司会で肅々と進められた。日本を代表し尾崎理事長が祝辞を述べた。社員の集合写真撮影後、合わせて第十三次社員大会が行なわれた。今回、山下名誉理事に

西冷印社第13次社員大会



(右) 印匯天下・国際印社聯展の開幕式

(左) 日本篆刻家協会役員作品も数点ごとに軸にまとめられて

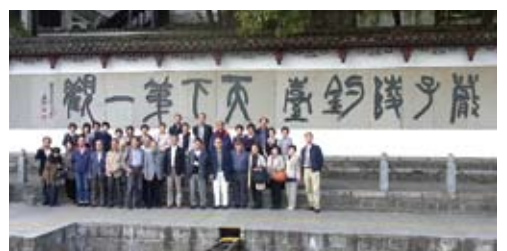
続いて本協会尾崎理事長が、西冷印社名誉理事に就任したことは誠に喜ばしい限りである。その後、西冷印社、印学博物館の見学をし、浙江美術館で開催される「印匯天下・国際印社聯展」の開幕式に参列。日本・韓国・中国全土の印社単位の展示で、協会役員の商品も聯に収めてあった。河坊街での買い物の後、上海蟹での食事を満喫した。

一月三日

専用バスで富春江を経由して千島湖(名湖大酒店)へ向かう。途中、華宝齋(中国古代造纸印刷文化村)に立ち寄り、紙漉き見学、詩箋の木版刷りも体験した。富春江へ到着後、遊覧船にて嚴子陵釣台(梅先生の碑「嚴子陵釣台天下第一観」)や碑林を見学。白壁に埋め込まれた碑の大きさに圧倒された。

一月四日

千島湖は淡路島ほどのダム湖である。遊覧船(五洲号)で出航し、漁楽島・梅峰観島見学、昼食(船内にて)をとり、龍山島を見学、その後、杭州の維



富春江・梅舒適先生書の碑の前で記念撮影する訪中団

景国際大酒店に戻り、西冷印社社務委員会副主任・常務副秘書長の包正彦、西冷印社理事・篆刻創作研究室主任の余正、印学博物館副館長の呉瑩、西冷印社理事の桑建華、沈浩、陳墨、王義驊等の西冷印社の先生方を招いての宴会は、大盛況のうちに終了した。

一月五日

邵芝巖筆莊にて買物。昼食時に解団式を行い、関空行きの者は杭州空港へ、中部空港行きの者は上海浦東空港へ向かった。台風の接近に不安を抱きながらの帰路であったが、杭州空港発NH(全日空)九五二便、関西国際空港着一九時三六分。上海浦東空港発CZ(中国南方航空)三七九便、中部国際空港着二時五六分(定刻より五〇分の遅れ)。何とか無事に訪中を終えた。

「第三〇回日本篆刻展」審査会

全国規模の篆刻のみによる唯一の公募展「第三〇回日本篆刻展」審査会が、二月二十三日大阪市天満の大阪マーチャンズダイズマートビル会議室で開催された。

審査に先立ち審査基準を協議する審査員会議



審査会場いっばいに並べられ審査をうける出品作

慎重に審査にあたる審査員



梅舒適賞の選考にあたる選考委員

全国各地からの評議員、常任委員、委員、会員、公募の作品八九六点を対象に厳正公平な審査により梅舒適賞七点、日本篆刻展大賞一点、同準大賞一〇点、同優秀賞二六点、同奨励賞八三点、特選六一点、秀作九三点、会員推薦賞六三点が選ばれた。

●審査委員長

理事長 尾崎蒼石

●審査員

常任顧問 山下方亭

顧問 市川両儀

副理事長 井谷五雲 大村高陵 平田蘭石 真鍋井蛙

代表理事 喜多芳邑 酒屋石荘 小朴圃 多田龍淵

中島春緑 渡邊和琴

常務理事 黒田玉洲 長谷川綿海 古溝幽畦 御手洗眉山

■梅舒適賞選考委員

常任顧問・理事長・副理事長 六名

■大賞選考委員（準大賞・優秀賞）

常任顧問・顧問・理事長・副理事長・代表理事 十三名

主な受賞者

梅舒適賞（評議員）

畔原裕美 宇於崎碧峯 後藤黄太郎

竹内立女 岸村爽風 滑田寒鴉

古野燕安

日本篆刻展大賞（常任委員）

芦野優美子

日本篆刻展準大賞（常任委員）

橋本碧峰 宮越素翠 水野和香

岡上汀華 小國妙子 垣内誠峯

小谷知洲 嶋田杏園 丸山沙舟

植野無人

日本篆刻展優秀賞（常任委員）

青木雄山 木村爽秋 池田謙三

樽井溪峰 平崎静翠 寄田龍神

内田紅楓 前田映香 山田美鈴

若杉彩雲 松永平峰 鈴木惠草

尾原衣香 鷹取麗水 永野久美子

伊藤淨彦 西岡青淡 西山進

細川忠苑 森原晋作 安井芳泉

静一華 中村須賀子 浅野道男

宮本瑞邦 立石見聲

―側款拓と書き入れをする場合―

側款拓と筆による書き入れをする場合は、その内容を変えることが必要です。この例1の如くほぼ同じ内容を書くことは、意味があまり無く、逆に作者の学識が問われます。筆で書き入れをしたい人は、くれぐれも側款に刻した内容と異なった文章を考えてください。

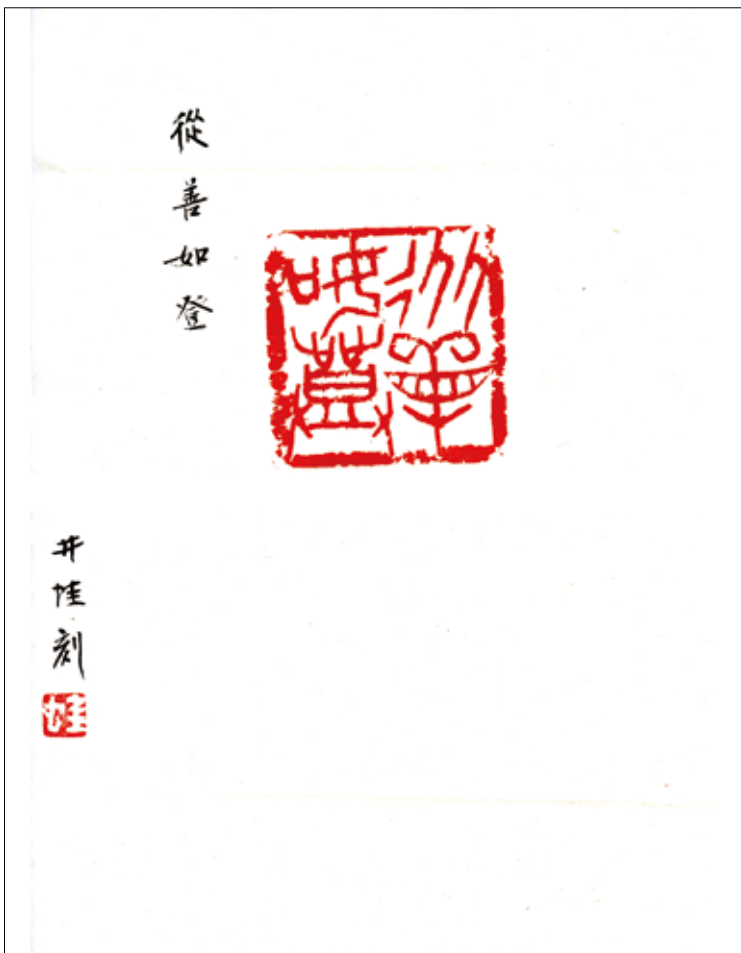
もちろん筆文字のみでもよろしいかと思えます。筆文字に自信の無い人は、井蛙刻などのように号十刻のみでもよろしいです。篆刻をやるうと思う人は篆書はもちろんのこと楷書、行書くらいは徹底して学習しておきましょう。

雅印については、私を例にとりますと号の「井蛙」か姓名の「真鍋昌生」にしましょう。(他、正しい印式のものを使用)この例2のように「蛙」のみ印は公募展には避けた方がよいでしょう。また大きさは三〜二分ぐらいが良いと思います。

先年オトシの額にされた人で表具屋さんがこのように表具したものを出品されてきました。出品する前にもう一度、見ておかれる方が良いでしょう。この例2の場合、落款の位置が左過ぎます。



悪い例①



悪い例②

各印社活動 トピックス

第十六回齊平展

十月四日(金)～六日(日)、大阪くらしの今昔館で開催した。今回の併催は、會員蔵園田湖城とその周辺と題して湖城と交遊のあった、鉄斎・本堂・雨山や、門人の谷聰泉・松坂帰庵などの作品を展観した。テーマ展は「花」字印で、各自思い思いのハガキ額作品を発表した。また、代表選出のメンバーで公募展に出品した作品を特注の額に入れて展示した。懇親会には、尾崎蒼石理事長先生をはじめ、多くの先生方に御臨席いただき、大盛況のうちに終了した。

(東尾高岳)



第十八回好日会書篆刻展

十月二十六日～二十九日まで中電岐阜ビルパレットルームで開催した。展示内容は恩師梅舒適先生のご壮年時の篆書軸「適意元無勝負心」をメインに臨書は各自選択のもの。今回は呉昌碩の半折二行書の篆書作品を加えた。自由作は半折以上とし毛筆と印、側款拓で構成した。小印作品は日本篆刻家協会の二十五年度の課題を五印以上側款拓を付けて半折1/2にまとめた。これ等は水墨画、篆書、木版画入り印箋などでそれぞれの個性が感じられる表現が楽しく毎回好評を得ている。又テーマ「脱皮」を各自がその想いを半紙1/2に記し展示したがご来場の方から親しみのお言葉を頂き有難い事であった。次回は今一歩でも見応えのある作品が発表できるよう今回の製作過程を反省し自覚して精進したい。

(田中緑翠)



デザインとして見る篆刻の展開 不華篆会習作展XXI

「酒」をサブテーマに生活の中の書・篆刻を不華篆会習作展XXIを平成二十五年十一月二日から四日までの三日間、伊丹市立芸センターB展示室で開催した。

今年「酒」をサブテーマに、生活の中の書・篆刻として、会員二十人がそれぞれオーソドックスな篆刻作品と工芸的な手法を用いた作品を出品した。オーソドックスな篆刻作品のほか、陶芸、木工、彫金、組細工、竹細工、ガラスデコ、鉄筋加工、紙細工、刺繍等の工芸的作品だけでなく、印材・印袴・和綴じ本も出品されバラエティに富んだ展示になった。毎年この工芸的作品には苦勞するが、来場された方々から「毎年、楽しみにしています」とのお言葉もいただき、たいへん励みになっている。毎年恒例となっている「篆刻一日体験講習会」を最終日に開催、好評を得ている。また巡回展として同十九日から二十四日まで、

丹波市の兵庫県立丹波の森公苑展示ギャラリーにて同内容で開催した。
(内田真弓)



第十五回蒼文篆会展

平成二十五年十一月二十二日～二十四日、大阪美術倶楽部で開催。全日本書道連盟、読売新聞社、日中文化交流協会、大阪府日中友好協会、西冷印社、日本篆刻家協会が後援。中国招待として、西冷印社幹部の作品を招聘した。副社長韓天衡、同朱関田、同童衍方、李剛田の各先生、古参の高式熊、余正、張耕源各先生であった。また、特別出品には先師梅舒適先生の作品を陳列。会期中に約八百人の方々にご来場いただいた。

二十三日には、蒼文篆会三十周年祝賀会を大阪上六のシエラトンホテルで盛大に開催し、百三十人の出席を得た。

蒼文篆会では、会員全体の作品発表を二年毎に行い、その中間の年には滋賀県立近代美術館で草津展を開催している。

(尾崎蒼石)



第六回篆靄社 游藝展

二〇一三年十一月二十二日(金) 二十四日(日)までアートホール神戸(兵庫県学校厚生会館)で開催致しました。同七階会議室に於いて『親子篆刻体験コーナー』を催し、沢山の方々のご参加を頂き、楽しく賑やかな会場となり、「次回も是非開催して頂きたい」と好評を得ました。(戸出九慮)



第一〇回 娯憚文会書法篆刻展

二〇一三年(平成二五年)十二月十三日(金) 十五日(日) 於、兵庫県民アートギャラリー(兵庫県民会館二階) 代表 井谷五雲 他五七名出品 特別展観：澄泥硯と硯拓 分 刻：『釋仲仁梅譜印』



茨城県古河市から感謝状

一月十五日に古河市の「とねミドリ館」で「平成二十六年古河市新春のつどい」が開かれ席上、五団体と五人の個人に表彰条例による感謝状の贈呈が行われました。これは、第五回日本篆刻家協会役員展での役員作品の寄贈に對してのものでしたが、例年、協会として「役員作品三点」を寄贈してきており、昨年の中島春緑、市川両僊、喜多芳邑の三代代表理事の作品を寄贈したことによるものです。



「つどい」には市長をはじめ議員、各種団体の代表、市政功労者など五五〇余名の関係者の参加があり、盛会でした。感謝状は理事長代理として、市川両僊代表理事が菅谷市長から受領しました。

展覧会成績

第四五回日展

入選

- 多田龍淵 小林圃 真鍋井蛙
- 青黄游魚 黒田玉洲 出田塘葭
- 井谷五雲 南岳泉露 喜多芳邑
- 関踏青 熊本晴文

青鏡忘詠(八) 小朴圃

「疏なるところは」

空虚立得馬、密處不容針(明・潘茂弘)とか、字畫疏處可以走馬、密處不使透風(清・鄧石如)とも言い、疏密は篆刻の章法の中で重要な項目の一つである。

私がこの言葉を初めて意識したのは、昭和五十年代鄧散木や趙古泥それに來楚生を知りはじめてからだったように思う。均布とか、疏密とか、章法を一から考え出すことの難しさを感じていた頃、鄧散木の「篆刻学」が出版され、その中の章法の解説に喰い入るように読んだことだった。

もう十年以上も前になろうか、中国内モンゴルの草原で馬に乗ったことがある。大草原の中にぼつんとあるゲルの村に入るには、まず、歓迎の意のキツイ酒を飲まねばならない嬉しい? 儀式があるのだが、皆でモンゴルの民族服を着て、さあこれから乗馬についての説明があるかと思いきや、それも全く無いきなり私が最初に乗ることに、乗ったのは良いが馬は勝手に歩き出す。止め方も教わっていなかったから...それでも皆で大列を組んで大草原を連ねて歩いたのは爽快そのものであった。初心者ばかりなので馬には歩いてもらわねば困るのだが、一頭が走り出して...そのあたりはまたの機会に譲ろう。



來楚生刻 犀然

可以走馬を読むごとに、あの草原を思い起こす。

展覧会案内

協会行事

▼随風會(山下方亭)

第二九回随風會篆刻展
会期 平成二六年四月一日～六日
会場 京都市立美術館

▼井谷五雲・小林圃・真鍋井蛙

第三三回六瓣會篆刻作品展
会期 八月二七日～三一日
会場 京都文化博物館

▼篆刻社(古溝幽畦)

第七回游藝展
会期 九月五日～七日
会場 兵庫県立美術館王子分館

原田の森ギャラリー 本館1階

▼畦石舎(小林圃)

篆刻・書・画
第二九回畦石舎作品展
会期 一〇月四日～五日
会場 京都市日図デザイン

不華篆會習作展XXII
会期 一〇月一日～三日
会場 伊丹市立工芸センター

▼不華篆會(酒屋石荘)

デザインとして見る篆刻の展開
同二六日～二四日に丹波の森公苑で巡回展

同二六日～二四日に丹波の森公苑で巡回展

報告

▼畦石舎(小林圃)

篆刻・書・画
第二八回畦石舎作品展
会期 平成二五年一〇月五日～六日
会場 京都市日図デザイン

遠邇篆會(伊藤雅夫)
第二二回篆刻と書遠邇篆會篆刻展
会期 一〇月五日～一〇日
会場 浜松市 クリエート浜松

▼黄和会(黄教育)

第二二回黄和会及び黄教育書道篆刻作品展
会期 一〇月一日～二四日
会場 静岡市民ギャラリー

海外交流

西洽印社創設二〇周年記念行事参加
日本篆刻家協会訪中団
一〇月二日(月)～二五日(金)
上海・杭州・富春江・千島湖

常務理事会

二月三〇日(土)
大阪市錦城閣

平成二六年度

理事会・総会・新年会

一月三日(月・祝)
大阪ベイタワーホテル

第三〇回日本篆刻展

出品締め切り
一月末

審査会

二月三日(日)
大阪マチャンネルズマート

予定

第三〇回日本篆刻展

四月九日(水)～三日(日)
兵庫県立美術館王子分館原田の森ギャラリー

授賞式

四月三日(日)
ANAクラウンプラザホテル神戸

第六回日本篆刻家協会役員展

四月二六日(土)～二六日(木)
古河市立篆刻美術館

中央研究会

八月二日(土)～四日(月)
シーサイドホテル舞子ビラ

常務理事会

二月三〇日(土)

前号での発表に漏れと誤記がありました。
お詫びして追記訂正します。

◆展覧会成績

第五九回全関西美術展
書芸院賞 森静二

◆平成二五年十一月課題

正 一鳥不鳴山更幽
誤 鳥不鳴山更幽

大安石詩句「鳥不鳴山更」は正しくは「一鳥不鳴山更幽」でした。作品の評価と掲載は「鳥不鳴山更」のままにしますが印文に間違いがあったことをお詫びします。

予告

第七回 中央研究会

講演：『漢画像磚と画像石の拓』
(小林圃代表理事)

実技：テーマ「篆書」

とき：八月二日(土)～四日(月)

ところ：シーサイドホテル舞子ビラ神戸
多数の参加お待ちします。
詳細は印社代表にお問い合わせ下さい。

編集後記

☆大阪が舞台のNHK朝ドラ「ごちそうさん」が、局も驚くほどの高視聴率で終わった。大河ドラマでは、神戸が登場する「平清盛」の後、京都が舞台となった「八重の桜」に続き、一月からは「軍師官兵衛」が始まり、兵庫県内各地でヒートアップ、ゆかりの地域の盛り上がりは大変なもの。

☆ヒートアップといえば、「宝塚歌劇が初演から百年」「宝塚市制六十周年」「手塚治虫記念館開館二十周年」にあたる本年、市では「宝塚市・トリプル周年」と銘打ち、全国に向けた各種イベントを展開している。

☆第三〇回となる日本篆刻展が、今年から兵庫県立美術館王子分館原田の森ギャラリーに会場を移して開催される。ユニークな篆刻の全国展ということで後援の兵庫県、神戸市の期待も大きく、種々支援してくれている。その期待に応えられるよう、協会も会員あげて一致協力していきましょう。(S)

編集：会報部

酒屋石荘 榊原晴夫
木村容庸 内田真弓

お気づきのこと、ご意見など
事務所までお寄せください。
FAX 072-760-3853
MAIL info@n-tenkoku.jp